

# Standard English

## およびその権威性に対する 英国大学教員の意識に関する調査研究

森田 彰

### 1. はじめに

Standard English という用語を学術的に定義しようとする時、いくつかの困難が表面化する。その理由は多くあるが、大きなものとしては、先に筆者が、森田（2002）で指摘したようなものがある。まず、英語がもつ特質に由来するものとしては、

1. 英語の使用が広い地域に亘っていて、その発展の過程も地域によってそれぞれ異なること。
2. 現在英語を使用している国家、地域における政治的、社会的体制がそれぞれ異なり、国家や行政の言語に対する姿勢が異なること。
3. またそれにともなって、それら国家、地域に暮らす人々の言語に対する態度も異なること、が挙げられる<sup>(1)</sup>。

更に、英語の場合は、世界の数箇所にかなりまとまった母語話者の集団を有し、かつ「世界語」としても世界的規模での「標準化」の時代を迎えている。これは、総じてネイティブの間では、standardization、そして、非ネイティブ

を含む場合は、globalization の文脈の中で捉えられている。こうした状況は、かつて、いかなる言語も経験しなかったことのように思われる。そして、それゆえ、英語の「標準化」を考える時には、地域性と、脱地域性、二つの視点のいずれに立つかの選択にも迫られる点も既に指摘したところである。

さて、次に言語そのものが持つ特質に由来する問題点であるが、それは言語の standardization (標準化) 一般について言えるものである。それらはまず、

1. 文語と口語の問題と<sup>(2)</sup>

2. 正書法も含む文字と音の問題

である。例えば、一般に、口語は文語よりも流動的であるが、その文語も一旦読まれると、標準化度は落ちざるを得ない。漢字は基本的に概念を表す文字であるから、数世紀を経ても、その意味するところは、比較的容易に捉えることができる。しかし、その読みは、その中に多くのバリエーションを含む中国語、日本語、韓国語などで様々に存在している。加えて、各言語の関係が「方言」と「言語」のいずれであるのかを論じる必要が生じてくる場合も往々にしてある<sup>(3)</sup>。

もちろん、Standard English の研究として、上記の問題を解決しながら、いくつかを同時に、並行して検証し、論ずることは可能であるが、それは、極めて多難で、論点を多く残す可能性を予感させるものである。

一方、研究者が捉えようとする Standard English の概念と実態とは別に、一般の人々が、「感じている」Standard English があることは、否定し難いところであろうし、本論が基づく調査においても、それは明らかとなっている。

また、一般の辞書の多くにも、Standard English への言及やエントリーがあり、概ね *Concise Oxford Dictionary* に見られたような定義に沿っている。

'form of English speech used, with local variations, by majority of educated English-speaking people' (7<sup>th</sup> edition, 1985)

後述するところからも分かるように、本論が基づく調査の結果においても、

これを逸脱するような定義は、見受けられなかった。学術的視点とは別に、一般の言語（英語）使用者が、その言語活動同様、その言語コミュニティの中で、共時的かつ総体的なものとして Standard English を捉えて、その存在を認めていることは、事実と考えるとよいだろう。

それでは、そうした一般の英語話者が、（おそらく）漠然とした形で「感ずる」Standard English とはどんなものなのか、そのあり方、そして、特に知識層のそれに対する attitude を、できるだけ具体的な形で浮き彫りにすることは、できないだろうか。この疑問に対する答えを探る第一段階として、現代のイギリス知識階層の Standard English に関する意識を調査するため、筆者は、2001年4月から2002年3月末まで、イギリスの Pembroke College, University of Cambridge 滞在中、イギリスで高い教育を受けた（受けている）人々の言語（英語）活動に関して、資料の収集と情報の交換、そして、アンケートの実施を行った。アンケートは、二群の学生、即ち、Pembroke College の全学生（学部生、大学院生）、Faculty of English の学部生一クラスにほぼ同一のもの、そして、Pembroke College の fellow に対して、いくつかの質問を差し替えて行った。

それらアンケートのうちから、最も母数の大きい Pembroke College の学生に行ったアンケートについては、彼らの使用する英語の獲得のプロセスと、彼ら自身の言語環境に関する反省、また、使用する英語のメンテナンスに関する部分を抜き出して、その結果を森田（2002）にまとめた。本論では、必要に応じてこの結果を参照しつつ、Pembroke College の fellow に行った調査について、同様な部分を中心に結果をまとめ、考察したい<sup>(4)</sup>。

ここで、本論および本論が基づいている調査と英語教育との関わりについても述べておきたい。森田（2002）でも述べたように、Honey（1997）は、Standard English の defining characteristic として、

1. generality or commonality

## 2. uniformity

## 3. correctness

を挙げている<sup>(5)</sup>。私達は、「正しい英語」には、極めて敏感である。もとより英語は外国語であるから、私達は、文法、語法、発音など全ての範疇で不完全であり、より「正しい」ものを求めるのは当然であろう。その時、例外的場合を除いて、私たちは、ある特定の地域や社会でのみ通用している変種、例えば、ベルファストの地域方言や、アメリカのいわゆる黒人英語は学ばない。それよりも、

1. より多くの人々に、通常好意をもって理解され、
2. かつ誤解を生む可能性がより少ない

変種を、学ぼうとする。つまり、より標準的な英語の変種を見つけ出して、それを学ぼうということになる。この点では、Honey の言う、generality や uniformity に合致し、その求める変種は Standard English に極めて近いか、そのものように思える。

では、もう一つの要素、correctness について、その変種が「正しい」と判断される拠り所には、一般に、

1. 英語圏で出版された、辞書（発音辞典を含む）、用法書、文法書とそれに基づいて特に日本国内で出版された書籍、教材など。
2. 特に英語のネイティブ・スピーカーによって、多くの人の目に触れることを前提として書かれたり、話されたもの。つまり、小説やエッセイ、放送などに現われた言語事実。
3. (学校教育や家庭教育などで養われた) ネイティブ・スピーカーの直感、があるだろう<sup>(6)</sup>。

では、英語のネイティブ・スピーカーは、上の1、2に関しても、私たちと同じようなものを、同じ程度に拠り所としているのか。さらに、一旦、ネイティブとしての直感が得られた後、標準的と感ずる英語に関してどのようなメンテ

ナンスを行っているのだろうか、という疑問も生じてくる。教育を受けたネイティブが、自分たちの英語をどのように捉え、またその英語をどのように管理しているかということは、外国語として英語を学ぶ者にとって重大な関心事となる。つまり、現代の Standard English のあり方、そして、特に知識層のそれに対する attitude を浮き彫りにすることは、同時に、私達外国語として英語を学ぶ者が、どのような英語を学ぶかに対する重要な指針ともなるものと言え、森田(2002)及び本論の目的の一つと意義もそこにある。

## 2. アンケート調査の概要

アンケートは、2002年3月4日から20日にかけて、Pembroke College の全ての fellow と by-fellow, research fellow および visiting, (associate) scholar 82名を対象として行った。ただし、fellow らの相当数と visiting (associate) scholar にはイギリス出身でない者や非ネイティブが含まれるが、アンケートでは、出身地方・国とネイティブか否かを記入してもらっている。

配布の方法は、後に添付するアンケートを A 4 両面に印刷し、Porter's Lodge の pigeonhole に3月4日に一斉配布した。回収方法も、アンケートに示すように、おなじく Porter's Lodge にある筆者の pigeonhole に投函してもらう方法をとった。回答総数は25名で、回答率は30.5%であった。なお、fellow に対するアンケートであり、回収期間も短く学年末であったことも考慮し、reminder は送らなかった。回答者の内訳と数は以下ようになった。

	出身国・地方	回答者数	
英語ネイティブ (イギリス)	イングランド	15	17
	北アイルランド	2	
英語ネイティブ (その他)	アメリカ	4	7
	オーストラリア	2	
	その他	1	
非英語ネイティブ	欧州	1	1
合計			25

なお、各1名の英語ネイティブ（その他）と非英語ネイティブ1名の出身国については、個人の特定ができるので今回は、発表を控えたい<sup>(7)</sup>。

### 3. 各質問とその回答分析

本論では、分析する設問に応じて、イギリス出身以外の英語ネイティブ、また非ネイティブの1名も統計に加えることとした。また、複数選択の設問、また結果的に複数回答となった設問もあり、下記表における母数が増えるので、各項目にそれを最下欄に示してある。それぞれに掲げる A-1) などの配列番号は、もとのアンケートの配列番号である。また、表中の0は、無回答を表す。

(言語環境、言語習慣に関するもの)

A-1) Would you say roughly what age group you are in?

1 under 30    2 31-40    3 41-50    4 51-60    5 over 61

	回答数	%
1	1	4
2	7	28
3	7	28
4	4	16
5	6	24
	25	

University of Cambridge では、大学の教員としての定年はあるが、college の fellow 資格は、その点曖昧である。そのため、筆者は60歳以上の回答者が多いと予想したが、結果は、ある程度バランスのとれたものとなったと思われる。

A-5) If you are a native speaker of English, do you speak any regional or social dialects?

1 Yes    2 No    If yes, which ones? \_\_\_\_\_

	回答数	%
1	4	16.7
2	19	79.2
0	1	4.2
	24	

No と回答した者の率が、極めて高い。同様の質問を学生にも行ったが、学生の多くは学部生であり、自分の言語、言語活動に対して反省する機会が少ないためであろうか、無回答も含め、回答にこれほどの差は現われなかった。Yes と回答した者は、それぞれ、出身地方・出身国の accent を挙げている。また、No の回答者 1 名も、出身地方の accent があることを書き添えている。A-1 の回答を考えると、学生との年齢差と言うより、fellow としての自負を含めた意識の差が伺える。

**B-1) How many English (language) dictionaries do you have in your household?**

1 none    2 one    3 two    4 three    5 four or more (    )

	回答数	%
1	1	4
2	8	32
3	5	20
4	3	12
5	8	32
	25	

Fellow へのアンケートで特徴的なことは、2 と 5 が他に比して多いことであるが、これが、文系、理系の専門性とも関係が低いことも特筆すべきで、日々の言語活動と研究活動との関連性を考察するには、十分な資料と慎重な分析が必要であることを示唆しているように思える。

**B-2) How many English (language) dictionaries do you have in your office?**

1 none    2 one    3 two    4 three    5 four or more (      )

	回答数	%
1	4	16
2	14	56
3	5	20
4	1	4
5	1	4
	25	

この回答は、一般の大学教員として、極めて常識的な範囲と思われる。

**B-3) What type of dictionaries are they? (multiple)**

1 book-type    2 computer-based    3 web-based    4 other (      )

	回答数	%
1	24	82.8
2	1	3.4
3	4	13.8
4	0	0
	29	

1 book-type を持たないと回答した者は、B-1 で 1. none と答えた非ネイティブの1名のみで、従って、辞書を持つ者は全て book-type の辞書を持っていることになる。家では、book-type、職場では web-based と答えた者がいた。Web-based の辞書の学生への浸透度の方が高いが、この回答もほぼ、推測可能な範囲と言えよう。

**B-4) If you do have, please write the title(s).**

OED を代表とする、Oxford University Press の一連の辞書群が回答の多くを占めた。いずれも複数回答であるが、

*Oxford English Dictionary (OED)* 5



*Shorter Oxford Dictionary (SOD)* 8

*Concise Oxford Dictionary (COD)* 9

*Pocket Oxford Dictionary (POD)* 1

で、その他に、一般的に Oxford 辞書群と答えた者が 2 名いた。他には、on line を含めた、*Webster* 5, *Collins* 4, *Chambers* 4 が多く、*Roget's* などの thesaurus と答えた件数も 4 件あった。Fellow らしいところでは、etymological dictionary を挙げた者 2 名と、アメリカの *American Heritage* を挙げた者 1 名 (USA) がいた。質、量ともに安定した豊かさを誇る Oxford の辞書が所有されていることは、極めて当然の結果であるが、それと同時に、日本の英語学習環境では馴染みの薄い thesaurus がこの種の問いの答えとして随所で挙げられている点が、文献を読み、かつ書く環境にある研究者の集団に特徴的なものであると言えそうである。

**B-5)** What do you usually refer to an English dictionary for (except for correcting it)?

1 definition 2 spelling 3 pronunciation 4 etymology 5 other ( )

	回答数	%
1	16	34.8
2	17	37
3	3	6.5
4	9	19.6
5	1	2.2
	46	

(except for correcting it) は、筆者のちょっとした遊びであるが、非常に特徴的なことは、3 pronunciation の回答率の低さである。発音と spelling の関係が比較的密接ではない英語にあって、知識層の発音に関する自信と、ある意味での無関心を象徴しているものと言えるのではないだろうか。他の回答とし

ては、5 other に usage を挙げた者 1 名、all と挙げた者 3 名がいた。また、“1~3 all these, but much less often. 4 etymology most often” (USA) と特記する者が 1 名いた。

**B-6)** What do you usually do when you come across an unknown word while reading or listening?

GUESS, then;

1 look it up in a dictionary    2 ask somebody    3 nothing    4 other (    )

	回答数	%
1	21	67.7
2	6	19.4
3	4	12.9
4	0	0
	31	

先に分析を行った学生へのアンケートに比べても、辞書にあたる率が大変高く、fellow らしい回答結果と言えるだろう。

**B-7)** Do you *have* any reference books on 'correct English' other than dictionaries?

1 Yes, I *have* (    )    2 No

	回答数	%
1	13	52
2	12	48
	25	

Yes の回答者の中で、1 名が題名無記入。他の者のほとんどが *Modern English Usage*, *King's English* のいずれかか両方、あるいは単に Fowler と名を挙げて Fowler 兄弟の著作と答えている。ネイティヴが彼らの著作を挙げること

は、頷けることであるが、回答者の全ての年代にこれらが現われたことは、特筆すべきことであり、彼らの著作の高い権威性の証となり得るだろう。ただし、Fowler 兄弟の権威性は日本においても高いものがあるが、今日ではむしろ古い権威書と見られているもので、また、その記述にも外国語として英語を学習する者にはかなり高度なものが含まれている。そのため、それをそのまま学習者に推薦することには、筆者は躊躇せざるを得ない。他には、Partridge, Quirk らの文法書を挙げた者がいた。

**B-8)** What kind of reference books do *you use* to write or speak 'correct English' other than a dictionary? (multiple)

1 grammar books (including dictionary-type) 2 usage books (including dictionary-type) 3 pronunciation dictionaries 4 none 5 other ( )

	回答数	%
1	2	6.9
2	7	24.1
3	2	6.9
4	16	55.2
5	2	6.9
	29	

B-7 の回答同様、2 usage books を挙げる者が多かったわけだが、実際の言語活動においては、辞書を活用するのが第一で、普通はそれで十分、時に応じて、usage を確認するという姿が浮かび上がってくる。また、5 other では、thesaurus がここでも登場している。

**B-10)** What English dictionary or reference book do you think is the most authoritative of all in order to write and speak 'correct English'?

この点については、記入の回答が思ったより少なく、I don't know. No opin-

ion. ? という回答が6件あった。他の回答の18件中14件が *Oxford English Dictionary* を含む Oxford の辞書群と答えている。Usage の Fowler, 辞書の *OED* と, 当然過ぎるほどの結果が出たことになる。

(Standard English のあり方と, その定義に関するもの)

C-2) Do you think there is Standard English in UK? 1 Yes 2 No

	回答数	%
1	21	84
2	4	16
	25	

この問いは, ある意味で筆者が最も興味のある問いであったが, Standard English が当然あるものとしているパーセンテージが提示されたことが意義深い。ただし, used by minority とのコメントがあったものの, 下の definition や C-6 の回答と合わせて考えると, その容認範囲は RP (Received Pronunciation) 話者として言われる数に比して極めて広いものと言わざるを得ない<sup>(8)</sup>。

C-3) If yes, how do you define it?

Fellow に対するアンケートのみ, この設問を設けた。言語学者ではないとしても, 科学的なものの見方を身に付けている fellow に対し, 数値ではなく, metalinguistic な質問を直接ぶつけてみたわけである。その多くが言語学に素人である研究者達が, 自らが漠然と抱いている Standard English をどのように具体的に規定するかを問うたことになる。これに対する回答には次のようなものがあった。なお, ( ) 内は年齢層である。

〈イギリス出身者による定義〉

- There is clearly Standard written English. (The National Curriculum ensures this.) On pronunciation, broadcasting actually controls this within

limits. (41-50)

- No easy answer. (over 61)
- It is grammatical. It can be found written in the broadsheet newspapers and most books. Most TV and radio commentators, news readers and narrators speak it. (over 61. Never heard of RP. と答えた者)
- RP/or the English as I speak it. (over 61)
- BBC; highly educated people. (31-40)
- As spoken in everyday conversation. (over 61)
- Derived from good written English and, to a less extent, from BBC spoken English (now increasingly suspect!). (over 61)
- As spoken by most BBC newsreaders. (over 61)
- Clearly pronounced, avoiding slang, employing informal grammatical structure. (51-60)
- It is the language of factual texts. (31-40)

〈イギリス以外の出身者〉

- Correct grammar. It can have a regional accent, but not too heavy. I make a distinction between a regional/class DIALECT (non-standard) and standard English with a regional/class ACCENT. (41-50)
- Middle Class, rooted in the South of England. (31-40)
- “Posh” English. (under 30)
- BBC English—more to do with usage than pronunciation. (41-50)
- South Eastern English, BBC. (31-40)
- Middle-class English. (31-40)

全体としての彼らの定義は、「(高い) 教育を受けた者の中で、日常書かれ話される規範的 (あるいは一定の) 文法構造と語法をもった英語」とまとめられ

そうである。「標準語」の定義として極めて、常識的な定義となったわけだが、文法にやや偏る印象はあるものの、書き言葉、話し言葉の両方に視点を置いている点に、改めて注目しておきたい。また、イギリス以外の出身者が、言わば教科書的にイングランド南部の色合いを指摘している点に興味深い。

C-5) What aspects of language do you think reflect Standard English most?

1 grammar    2 vocabulary    3 pronunciation    4 other (            )

	回答数	%
1	14	43.8
2	5	15.6
3	12	37.5
4	0	0
0	1	3.1
	32	

C-3 の定義を数値的に裏付けた結果である。また、イギリス以外の出身者には 3 pronunciation を挙げる者が多いようである<sup>(9)</sup>。

C-6) How many UK people do you think usually use Standard English in everyday life?

1 100-75%    2 74-50%    3 49-25%    4 24-10%    5 less than 9%  
6 other (            )

	回答数	%
1	1	4.2
2	5	20.8
3	7	29.2
4	4	16.7
5	1	4.2
6	0	0
0	7	29.2
	24	

5割の回答者が<sup>8</sup>、Standard English を使うイギリス人は、50%以下であると答えているが、興味深いことに、3割の回答者が49-25%を選んでいる。このことは、Standard English を用いる層をRP話者の範囲より広く考えているようで、近年急速に高まる大学進学率を考え合わせると、極めて「現在的」結果と言えるだろう。なお、No idea. との回答は0に含めた。全くの無回答は3名であった。

(Standard English の権威性に関するもの)

C-7) Where do you think the authority of Standard English comes from?

(multiple)

- 1 BBC    2 quality papers (            )    3 independent schools  
 4 state schools    5 universities    6 the Queen's speech  
 7 upper class speech    8 grammar (usage) books and dictionaries  
 9 family    10 none    11 other (            )

	回答数	%
1	17	23.9
2	10	14.1
3	10	14.1
4	7	9.9
5	6	8.5
6	0	0
7	4	5.6
8	7	9.9
9	4	5.6
10	0	0
11	3	4.2
0	3	4.2
	71	

結果から、6 the Queen's English 以外は、選択肢のどれもが Standard English に権威性を与えるものとして機能していると考えられていることが分

かるが, fellow の回答に特徴的なのは, 3 independent school (かつての public school) の数字の高さであろう。また, C-3 の定義と重ね合わせると, BBC は今なお, 発音における権威であることに間違いなさそうである。なお, 11には, all, professional classes, don't know, National Curriculum が挙げられている。

(その他)

**D-1)** If you are a British English speaker, do you think American English has an influence on your own English?

1 Yes    2 No                      (And do you like AE?    1 Yes    2 No)

	回答数	%
1	11	44
2	7	28
0	7	28
	25	

この設問は, 第一に, fellow らが自らの英語と言語活動を意識的に観察し, 回答を行ってくれたか否かを再確認してもらうことを意図して, 問うたものである。従って, アメリカ英語はそのための鏡であるので, 直接 Standard English に関する問いとは, もちろん言えない。ただし, 単独の質問としては, 興味深いものでもある。イギリス人の中で, 1 Yes と答えた者は11名。2 No と答えた者が6名である。オーストラリア出身の1名が No と答え, Try not to. とコメントを寄せている。無回答者は, British English speaker ではない者。なお, Do you like AE? の問いに積極的に答えた者の回答数は, 学生の場合のそれとほぼ拮抗していた<sup>(10)</sup>。

#### 4 結論

アンケートから受ける全体的印象から, 予測され得る当然の結果が現われた



ように思える。まず、Pembroke College の fellow 達の質の高い言語活動と、使用する言語（英語）に対し深く反省する態度が浮かび上がってくる。研究者であり、かつ教育者である彼らは、受けた教育と自らの努力によって得た英語に誇りを持ち、かつそれとほぼ同義である Standard English の存在を認めている。そして、それは、話し言葉、書き言葉のどちらの側面も視野に入れたものであると言える。

Standard English の権威性、または correctness に関しては、C-7 の結果からも分かるように、幅広い知的言語文化と言語活動の中でそれが支えられていると考えている。その中で、書き言葉では、長い歴史を持つ Fowler 兄弟の著作と OED、話し言葉では、BBC の権威性を重視する結果が現れたのは、興味深いことであるが、この結果もまた、彼らが日頃の自らの言語活動に関して反省の心を持っていること、つまり、自らの言語活動に常に注意を払っていることを物語っていると言えよう。発音と同様に、文法に関して強い関心を抱いていることも、例えば、二重否定の使用や、代名詞の用法など、文法的バリエーションが多いイギリス英語全体の状況を考えると、学生へのアンケート結果と考え合わせ、改めて興味深い。私達外国語として英語を学ぶ者とは、抱える文法的問題の意味合いが多少なりとも異なるものの、英語教育への一つの示唆になるものであるとの確信が深まる。

これも森田（2002）でも述べたが、もともと、民族的な違いがそれほどないにも関わらず、イギリス英語には多くの地域方言、また階級方言が存在している。そのイギリスにおいても、第二次世界大戦前は 8 割と言われた労働者階級が、4 割に減少したとも言われ、中産階級層が相対的に増加した今、かつての King's English あるいは Public School English といった、ごく一握りの人々の用いる英語を正統な英語として認め、それを軸に英語の standardization が行われるという考え方をとることは、次第に困難になってきていることが本調査でより明らかになったと言えよう。このことは、他の多くの民主的先進国で

行われる言語の多くに共通することであるが、自らの英語に自負を持つ彼ら fellow が、学生の用いる英語には、比較的寛容であることを示す C-10 のコメントからも推測できる<sup>(11)</sup>。

アンケートにはいく人もの fellow がそれぞれの設問に意見等を寄せてくれたが、ここで、最後のコメントの求めに応じてくれた数学専攻の年配の fellow の言葉で本論を終えたいと思う。

The point of having a standard English is to be able to communicate with precision, and to be able to add emphasis, colour and nuance with style and variation.

\*\*\*\*\* アンケートの全文 \*\*\*\*\*

### A Survey of Attitudes to Standard English

Dear Fellows,

March 2002

Akira Morita: [moritas@mn.waseda.ac.jp](mailto:moritas@mn.waseda.ac.jp)

Associate Scholar, Pembroke College

I am interested in attitudes to Standard English among highly educated people. I'd really appreciate it if you'd answer the following questionnaire.

**Introduction:** The purpose of this survey is to collect basic information about what speakers of the English language think of as sources or authority for 'correct' or 'standard' English and their habits of referring to it.

**Confidentiality:** Respondents are given an assurance of confidentiality, and great care is taken to ensure that the information given by individuals is kept confidential. Only aggregate results from the survey are used for the further research and publications. The data will be on the following web site in August

2002.

<http://web.faculty.waseda.ac.jp/aquila/>

**Returning the questionnaire:** Please complete it and put it back into my pigeonhole in the Porter's Lodge, AS SOON AS YOU POSSIBLY CAN (and no later than 20<sup>th</sup> March).

### QUESTIONNAIRE

\* If none of the given possibilities exactly fits, please tick or circle one that corresponds best to your opinion or experience.

**A-1)** Would you say roughly what age group you are in?

1 under 30    2 31-40    3 41-50    4 51-60    5 over 61

**A-2)** 1 Male    2 Female

**A-3)** What is your academic discipline? \_\_\_\_\_

**A-4)** Are you a native speaker of English?

If yes, which part of UK (which country) are you from? \_\_\_\_\_

If no, what is your native language? \_\_\_\_\_

**A-5)** If you are a native speaker of English, do you speak any regional or social dialects?

1 Yes    2 No    If yes, which ones? \_\_\_\_\_

**B-1)** How many **English** (language) dictionaries do you have in your household?

1 none    2 one    3 two    4 three    5 four or more (    )

**B-2)** How many **English** (language) dictionaries do you have in your office?

1 none    2 one    3 two    4 three    5 four or more (    )

**B-3)** What type of dictionaries are they? (multiple)

1 book-type    2 computer-based    3 web-based    4 other (    )

**B-4)** If you do have, please write the title(s).

---

**B-5)** What do you usually refer to an English dictionary for (except for correcting it)?

1 definition 2 spelling 3 pronunciation 4 etymology 5 other ( )

**B-6)** What do you usually do when you come across an unknown word while reading or listening?

GUESS, then;

1 look it up in a dictionary 2 ask somebody 3 nothing 4 other ( )

**B-7)** Do you have any reference books on 'correct English' other than dictionaries?

1 Yes, I *have* ( ) 2 No

**P.T.O.**

**B-8)** What kind of reference books do you use to write or speak 'correct English' other than a dictionary? (multiple)

1 grammar books (including dictionary-type) 2 usage books (including dictionary-type) 3 pronunciation dictionaries 4 none  
5 other ( )

**B-9)** Please name one that *you* use most frequently.

---

**B-10)** What English dictionary or reference book do you think is the most authoritative of all in order to write and speak 'correct English'?

---

**C-1)** When and where did you hear of the phrase 'RP (Received Pronunciation)' first?

WHEN \_\_\_\_\_ WHERE \_\_\_\_\_ I've never heard of it.

- C-2)** Do you think there is Standard English in UK? 1 Yes 2 No
- C-3)** If yes, how do you define it?
- C-4)** If no, why or what kind(s) of English do people speak to communicate with each other? (Please skip to C-10)
- C-5)** What aspects of language do you think reflect Standard English most?  
1 grammar 2 vocabulary 3 pronunciation 4 other ( )
- C-6)** How many UK people do you think usually use Standard English in everyday life?  
1 100-75% 2 74-50% 3 49-25% 4 24-10% 5 less than 9%  
6 other ( )
- C-7)** Where do you think the authority of Standard English comes from? (multiple)  
1 BBC 2 quality papers ( ) 3 independent schools 4 state schools  
5 universities 6 the Queen's speech 7 upper class speech  
8 grammar (usage) books and dictionaries 9 family  
10 none 11 other ( )
- C-8)** What proportion of your teachers used Standard English in your school education?  
1 all 2 the majority 3 50-50 4 less than half 5 other ( )
- C-9)** Generally speaking, are you happy or reluctant to speak Standard English?  
1 happy 2 reluctant If reluctant, why? \_\_\_\_\_
- C-10)** How do you feel when your students do not speak to you in Standard English? (e. g. in their regional or social accents)?
- D-1)** If you are a British English speaker, do you think American English has an influence on your own English?



1987: p. 3)

- (9) これに対して、同じ設問に対する学生の答えは、次のようになり、1 grammar が突出している点が好対照である。これは、より若い世代が、発音には寛容である傾向があると考えられると同時に、知の担い手である University of Cambridge の college の fellow らが、とりわけ発音に対しては配慮を払っている可能性も考え得るだろう。

	回答数	%
1	64	60.1
2	17	16.2
3	19	18.1
4	5	4.8
	105	

森田 (2002) より

- (10) 設問 D-2, D-3 に関しては、本論の主旨から若干ずれるので、今後学生に対するアンケート結果との比較を行い、別に考察したい。
- (11) コメントのいくつかを挙げてみる。
- Students tend not to use regional vocabulary. Regional accents I do not mind at all.
  - Happy!
  - I have no objection to regional accents.
  - Don't mind unless they employ slang which is ugly.
  - No problem, as long as they are intelligible.
  - It's just a fact. It's their choice-I don't mind as long as I can understand them. (RP/or the English as I speak it. と答えた回答者のコメント)
  - Spoken English -no problem. Written English -sad + disappointed.

本文でも述べたが、忙しい学期末にアンケートに答えてくださった Pembroke College の fellow と関係者の方々にこの場を借りて、厚く御礼申し上げます。また、本文に述べたように、多くの貴重なコメントを頂戴した。本論の完成は、それらの助けによるところ大であることも申し添えたいと思う。ただし過誤があるとすれば、それは全く筆者の責である。

#### 参考資料

- 明石紀雄, 飯野正子 (1997) 「エスニック・アメリカ 新版」有斐閣, 東京。
- Bex, Tony (1996) *Variety in Written English*, London: Routledge.
- Fisher, John H. (1996) *The Emergence of Standard English*, Kentucky: The University Press of Kentucky.
- Honey, John (1997) *Language is Power, the Story of Standard English and its Enemies*, London: Faber and Faber.
- Hughes, Arthur and Peter Trudgill (1987) *English Accents and Dialects*, 3<sup>rd</sup> edition, London: Arnold.
- Knowles, Gerry (1997) *A Cultural History of the English Language*, London: Arnold.
- Milroy, James and Lesley Milroy (1995) *Authority in Language*, 2<sup>nd</sup> edition, London: Routledge.
- 森田 彰 (2002) 「Standard English およびその権威性に対する英国大学生の意識に関する調査研究」日本実用英語学会論叢 10号, 東京: 日本実用英語学会。(2002年9月発行予定)
- Morita, Sadao (1966) 'Archaism in English', *English Literature* 29, Waseda University English Litera-

ture Society: Tokyo.

中尾俊夫, 寺島迪子 (1989) 「図説 英語史入門」東京: 大修館.

Sykes, J.B. (1985) *The Concise Oxford Dictionary of Current English*, 6th edition, Oxford: Oxford University Press.

吉川幸次郎 (1989) 「漢文の話」東京: 筑摩書房.